

黒島教材解説

人より牛の多い島

青木 一桂

本教材では、黒島の基幹産業である牛畜産と、それに携わる人々の努力を提示することによって、子供達に地域産業のすばらしさを再確認・再発見してもらうことを意図したつもりである。

まず導入として「クラスの好きな料理ベスト3」をおこなう。自分達の食生活を省みる事で、「肉」がおかずの食材として多用されていることを認識させる。続くグラフ作業では、米の消費量低下に反比例して増加する牛肉の消費量を示す事によって、食生活の変化を気づかせるものである。

2以降では、黒島の畜産に焦点を絞り、その形態を学ばせる内容となっている。前回の教材内容を大きく改訂・再編成したが、これは黒島における畜産の形態が以前の調査時と比較して変化したためである。すなわち、スタビライザーによってほとんどの牧草地が整備されたこと 大規模な畜産施設の導入をおこなったこと 人工授精が一般化し、種牛がほとんどみられなくなったこと 若手の新規畜産農家の増加などである。

そこで、黒島の牛ちく産の主体が子牛生産であること、ちく産農家の授精から出産、出荷までの一連の努力、より良い牛づくりをめざしての環境整備、畜産農家の形態と若手新規畜産農家の増加に学習項目を絞った。

出荷前の牛を写真の中から選ぶ作業は、子牛が出荷されるという意外性を、子供達にあらゆる仮説を立てることによってよりいっそう顕著化しようと考え導入した。

本教材は改訂前同様、子供の視点で畜産形態に迫れるように主人公「けんちゃん」を設定した。けんちゃんの絵日記では、意図的にばらばらにされた絵と文章を組み合わせるという作業を通して畜産農家の仕事内容のイメージ促進を狙っている。また、最後の項目6「黒島の将来」では、黒島で畜産を志す若者の話を挿入し、けんちゃんが未来の畜産を展望する状況を設け、子供達自身が畜産の将来観を主体的に話し合うことを目指した。黒島における畜産形態を子供がその視点で捉えることで、地域産業を再発見し、子供なりの地域観を形成してくれれば幸いである。